

謹 弔

次の会員がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

原 田 忠 明 氏	徳 山医師会	4 月 28 日	享 年 89
田 中 聖 児 氏	宇部市医師会	5 月 20 日	享 年 87

編 集 後 記

この 5 月の連休後半、東北新幹線はやぶさを利用して家族と盛岡に出かけた。街を歩いても、車窓からでも春の花が目飛び込んでくる。残雪を頂く岩手山を背景に、水仙、辛夷、レンギョウ、雪柳、芍薬、チューリップ、桃の花と桜も。北国の春は、長い冬を終えると、すべての花が一斉に開き緑の世界になると聞いていたが、本当にその通りであった。

ちょっと足を延ばして一関市へ。岩手県の最南端の町の駅前にある大槻三賢人像を見学する。江戸から明治にかけて大きな功績を残した大槻家三代の胸像で、ご紹介すると、まず大槻玄沢は、一関藩の藩医の長男で杉田玄白、前野良沢の弟子であり『重訂解体新書』を完成させた蘭学者である。玄沢の次男、磐溪は開国派の儒学者で仙台藩の藩校の学頭を務めた。磐溪の三男は、日本最初の辞書『言海』を完成させた国語学者の大槻文彦。DNA は偉大だ。

お勉強の後、日本酒の蔵元にあるお酒の博物館へ寄ってみる。試飲のなましぼり原酒があまりにもおいしく、二杯目を自分で注ごうとして息子に止められるが……。この蔵の日本酒を一揃い、楽しくお買い物。いい気持ちになったところで、すぐ近所にある有名なジャズ喫茶 B に歩いて行くことにした。扉を開けた瞬間、ライヴ？と思ったほどの壁一面の巨大スピーカーの音響はもちろん、メニューがないこと、気品のある美しいウェイトレスさんにも感銘を受け、一同神妙にコーヒーを頂いた。

一関は学問とお酒と JAZZ の街。この夏は、秋田新幹線こまちに乗って出かけようかな。

(理事 長谷川 奈津江)